

見よ！この造形美！ キイロスズメバチの巣

なぜなのだ。職員室にいと次から次に仕事が降ってくる。こりゃいかんと逃げるようにして生物室で身を潜める（集中したいだけでサボっているわけではない、決して）。すると、突然電話が鳴った。ぐっ…私に安息の地は無いのか…。観念して出てみると、猿江公園サービスセンターのアカヤマさんからで、ほっとする。「またハチの巣を取ったんですけど、いりますか？」きたきたー！一気にテンションが上がる。公園の木にできていたスズメバチの巣を近くを通った人が見つけて通報が入ったらしい。去年（Vol.67）の時と同じように、すぐさまトヨフクさんが巣を駆除したのだそうだ。去年駆除に立ち合わせてもらったのは12月7日だったから、同じような時期だ。「今回はかなり高い位置にあったので大変でした」とのこと。もちろん即答で「欲しいです！」と答え、アカヤマさんがわざわざ学校まで巣を持ってきてくれた。実は今年の3月にも1つ巣を持ってきてくれていて、去年のものも合わせれば**これで3つ目**。猿江公園では頻繁にスズメバチの巣が見つかるようだ。一般的には怖がられると思うが、私はとても嬉しい。前にも言ったが**ハチの巣の美しさにすごく惹かれてしまう**。もらった巣を職員室で自慢げに披露していたら、「ハチの巣もらってそんなに喜ぶの佐藤先生だけですよ。」と第2分野のY先生に笑われてしまった。

さて、これはどのスズメバチの巣なのだろう？調べると、日本のスズメバチ亜科には計17種（スズメバチ属8種、クロスズメバチ属5種、ホオアカスズメバチ属4種）いるそうだが、都会で大型の巣を木の上に作るのはいたい5種くらいに絞られる（去年の巣はコガタスズメバチのもの）。早速、ハチ好きのタツキに見てもらうことにした。巣を渡すや否やタツキは**ガシガシ巣穴をほじくり幼虫や成虫が残っていないか探し始めた**。“巣自体”の造形美にうっとりする私はそんなタツキの乱暴な所業に、あわわ…壊さないでくれーと思ってしまう。1匹だけ残っていた成虫の死骸を見つけ出し、「ヒメでもない…コガタでもモンでもない…これはたぶんキイロ（スズメバチ）ですね。

と何の造作もなく答えた。うーむ、さすがだ。どうして分かるのか聞くと、「たとえば、口のところ（頭楯（とうじゅん））の突起を見るんです。3つならコガタですがこれは2つです。」うむむむ、なるほどね…。言われりゃ分かんなくてもないが、それ全部覚えてるの？すごいなあ…。「**本当は巣を全部破壊してもっとちゃんと調べたいです。**」と目を輝かせながらニヤリとするタツキに、そ、それは勘弁してくれ～とお願ひして調査はここまでにしてもらった。

※私のようにハチの巣にうっとりしたとしても、良い子は絶対に近づかないようにしましょう。



ピンセットでガシガシ巣を暴き出したタツキ。この写真を撮っている私は、巣を壊されるのではないかと気が気でない。ただ、生き物屋としてはタツキの方が真っ当な気がする。



巣から取り出した成虫の頭。頭楯の先の突起（赤矢印）が3つあればコガタスズメバチだが、これは2つ。種を同定する時はこのような細かな特徴を調べる必要がある。



猿江恩賜公園北側のキイロスズメバチの巣 直径18cm

アカヤマさんが学校まで持ってきてくれた。スズメバチは冬になると女王以外は死んでしまい、巣は放置される。この規則的なハニカム構造を虫が作ったと考えると本当にすごい。中央上にある閉じた部屋を開けたら成虫の死骸が入っていた。



半球型で3層の巣板からなっていた。ハニカム構造の1つ1つの部屋は“育房”と呼ぶ。



育房の1つに入っていた幼虫。左側が頭。歩く必要がないため脚は退化して目もない。